様式第2号の1-②　【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】関係　　参考資料　八千代リハビリテーション学院

教育課程表（実務経験のある教員等による授業担当状況）

医療専門課程　作業療法学科　昼間コース　令和5年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	授業単位数	授業方法			実務経験教員担当科目		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実習・実技	該当の有無	単位数（再掲）	科目担当専任教員
○			心理学	対人援助職に必要な人間の行動科学の基本原則を学び、対象者理解の基礎を養う。また、リハビリテーション治療課程にかかわる学習理論、動機付けを理解する。	1年前期	30	2	○					
○			統計学	基礎的な統計処理を学習し、理学療法及び作業療法に必要な臨床研究の基礎を身につける。	2年後期	30	2	○					
○			情報処理	PCの基本的操作を学び、文章作成及び表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを用いた実習を通じ、研究、レポート作成に必要なデータ処理、統計分析の手法を学習しリハビリテーション研究の基礎を養う。	2年後期	30	2	○					
○			物理学	人体の運動と物理法則の関係を理解し、科学的な見方を身につける。また、リハビリテーションの臨床場面における科学的思考の基礎を養う。	1年前期	30	2	○					
○			基礎教養	文章を書く上で基本となる語彙と文法、文章構成(文の組み立て)を理解する。また、説得力のある論理的な文章表現力を身につける。	1年前期	30	2	○					
○			対人関係演習Ⅰ	医療専門職への社会的要請、医療人としての守るべき倫理を理解する。また、人間関係の在り方、他者理解のためのコミュニケーション技法を理解する。	1年前期	30	2		○		○	2	新垣　孝幸
○			対人関係演習Ⅱ	人間関係における他者理解のためのコミュニケーション技法を経験し、自己課題を認識する。	1年後期	30	2		○	△	○	2	富本　哲平 中田　孝
○			解剖学Ⅰ	正常な人体の動物機能にかかわる骨・筋及び神経系の形態と構造を理解する。	1年前期	30	2	○					
○			解剖学Ⅱ	正常な人体の動物機能の特に神経系脳携帯及び構造を理解する。正常な人体における生物系機能並びに意識的感覚や精神機能にかかわる形態・構造を理解する。	1年後期	30	2	○					
○			生理学Ⅰ	生理学の基礎である細胞生理を理解したうえで、人の生理学的（植物）機能を理解する。	1年前期	30	2	○					
○			生理学Ⅱ	人の動物性機能を理解する。	1年後期	30	2	○					
○			運動学Ⅰ	身体の構造と姿勢保持・運動との関係を理解する。上肢の骨・関節・靭帯・筋の構造と運動との関わりを理解する。　脊柱・胸郭の構造と運動との関わり合いを理解する。	1年前期	60	4	○			○	4	中田　孝
○			運動学Ⅱ	下肢の骨・関節・靭帯・筋の構造と実際の運動との関わりを理解する。脊柱・胸郭の構造と運動との関わり合いを理解する。姿勢保持機構と正常歩行について理解する。	1年後期	30	2	○			○	2	中田　孝
○			運動学演習Ⅰ	人体の関節構造と運動の力源である筋肉について、知識を深めて人体の動きを3次元で考えられる基礎を養う。	1年前期	30	2		○		○	2	富本　哲平
○			運動学演習Ⅱ	人体の関節構造と運動の力源である筋肉について、知識を深めて人体の動きを3次元で考えられる基礎を養う。	1年後期	30	2		○		○	2	平間　岳

○			人間発達学	①身体、運動、認知、心理、社会性など各領域の正常な発達過程を理解する。 ②人間を生物学的存在としてでなく社会的存在としてとらえ、各段階の発達課題を理解する。 ③人間発達学を通じて幅広く豊かな人間観を身につける。	1年後期	30	2	○					
○			リハビリテーション基礎医学Ⅰ	理学療法士・作業療法士にとって、運動・活動は治療に必要不可欠である。本講義では、ヒトが運動・活動するために必要な栄養学を含めた諸要素の基礎、それらへの加齢・不活動の影響及び生活習慣病について学習し、運動の必要性を理解しつつ、実践するために必要な評価・リスク管理及び緊急時の対処方法について理解することを目標とする。	1年前期	30	2	○			○	2	平間　岳
○			リハビリテーション基礎医学Ⅱ	画像及び薬物に関する知識は、理学療法士・作業療法士として患者の病態を把握し、治療プログラムを作成する上で重要な基礎となる。また、医師など他の医療スタッフと共通の認識を持ち、コミュニケーションを図る上でも必要な知識である。そのため、画像及び薬物についての基礎を理解することを目標とする。	1年後期	30	2	○			○	2	中田　孝
○			医学概論	医療倫理、健康と病気の概念、疾病の分類を学び病気の診断と治療の概要を理解する。	1年前期	30	2	○			○	2	音琴　慎一
○			病理学概論	①疾患の原因および形態的変化などの基本概念や用語、基本的視点と関連技術に関する知識を捉える ②医療・医学における病理学の役割、意味、位置づけを理解する	2年前期	30	2	○					
○			整形外科学	①脊髄損傷の概念を理解する。 ②脊髄損傷の受傷機転、病態を理解する。	2年前期	30	2	○			○	2	音琴　慎一
○			内科学	①主要な肝臓、胆道軽、膵臓、腹膜疾患の症候、病態生理、症状について理解する。 ②主な肝臓、胆道系、膵臓、腹膜疾患の検査法、治療法を知る。	2年前期	30	2	○			○	2	中田　孝
○			神経内科学	①水頭症の発生機序、診断と治療を理解する。 ②慢性硬膜下血腫の発生機序，診断と治療を理解する。 ③脳外傷の発生機序，分類，診断と治療を理解する。	2年前期	30	2	○			○	2	富本　哲平
○			臨床心理学	人間行動の基礎理論を学び、正常及び異常心理の評価と行動療法などの心理療法を理解する。	1年後期	30	2	○					
○			精神医学	精神疾患の疫学及び予後、病因と症状、検査及び治療を理解する。	1年後期	30	2	○					
○			リハビリテーションと作業療法Ⅰ	リハビリテーションの歴史的背景、定義、目的、実施過程等を理解する。また、ＩＣＦの構成因子と作業療法の概要や治療の実施過程の関係性を理解する。	1年前期	30	2	○			○	2	金平智恵美
○			リハビリ テーションと作業療法Ⅱ	地域包括ケアシステムにおける作業療法士の役割、ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝに関連する職種との連携や社会保障制度、救急救命に必要な知識を学ぶ。	1年前期	30	2	○			○	2	金平智恵美
○			基礎作業学Ⅰ	①作業療法における作業の意味・特性を理解し、作業療法における治療的効果の概要を理解する ②日頃私たちが行っている作業は、どのような能力を使って遂行されているのか、どのような生物学的・心理社会的・文化的意味があるかを意識する	1年前期	30	2	○			○	2	新垣　孝幸
○			基礎作業学Ⅱ	①作業療法における重要な視点を具体的な作業を通して学ぶ ②各種モデルの概念・評価について理解を深め、作業療法が作業活動を媒介とした様々な対象者への治療・指導・援助技術であることを理解し、具体的に適用する方法を学ぶ	1年後期	60	2	○		△	○	2	富本　哲平 新垣　孝幸
○			基礎作業学Ⅲ	①様々な作業療法場面で用いられる作業活動と評価（分析・解釈）、介入方法を具体的に知る ②生活を捉える、治療的に作業を用いる視点を知る	2年前期	30	1	○		△	○	1	中田　孝
○			生活機能演習	生活行為向上マネジメントのプロセスである、プランニングについてその内容と流れを理解する	2年後期	30	1		○	△	○	1	新垣　孝幸

○			作業療法管理学	①作業療法における人材育成の重要性を説明できる ②作業療法環境管理・物品管理のポイントを説明できる ③作業療法における収支バランスのポイントを説明できる	３年前期	30	2	○			○	2	音琴　慎一
○			基礎評価学演習Ⅰ	①作業療法評価の概要を理解し、基本的評価の技術・態度を身に付ける ②バイタルサイン、形態計測、関節可動域測定法についての基本的技術を獲得する	１年前期	60	2	△	○		○	2	望月　真樹
○			基礎評価学演習Ⅱ	①各種の検査・測定の目的と概要を他者に説明できる ②各種の検査・測定の手順を学生同士で再現できる ③各種の検査・測定の実施上の留意点を述べることができる ④各種の検査・測定の結果を文書・口頭で説明できる	１年後期	60	2	△	○		○	2	奥川　達也
○			基礎評価学演習Ⅲ	①作業療法場面で活用される検査法について理解する ②各検査法の理論背景と生体における反応様式について理解し、実際の検査を施行することができる	２年前期	30	1	△	○		○	1	平間　岳
○			基礎評価学演習Ⅳ	①作業療法評価における基礎概念を学び、モデルケースで全体像を把握し現状能力や生活行為を妨げている要因の分析、目標設定、治療プログラム立案という一連の作業療法思考過程を経験する	２年後期	30	1	△	○		○	1	富本　哲平
○			臨床評価学演習Ⅰ	①　対象者に検査の説明を行い安全に検査を施行できる ②　対象者の状況に合わせた検査の方法を考えたうえで、練習に取り組むことができる ③　検査器具・記録用紙などの準備・片付け、管理を行える ④　基礎評価学演習で学修した検査測定について、健常者に施行できるレベルの技術を習得する	１年前期	30	1	△	○		○	1	望月　真樹
○			臨床評価学演習Ⅱ	対象者に徒手筋力検査法（下肢・頸部・体幹）を実施することができる 教員による個別のフィードバックにより気づきを得るとともに、自己の課題を認識できる	１年後期	30	1	△	○		○	1	奥川　達也
○			日常生活活動学演習Ⅰ	①リハビリテーションにおける日常生活の概念・範囲・意義を理解する ③基本動作と身の回り活動の身体運動の特徴を演習体験をもとに運動学的視点、解剖学的に理解する ③演習にて実際のＩＡＤＬを体験し、観察・分析・記録し理解を深める	１年後期	30	1	△	○		○	1	望月　真樹
○			日常生活活動学演習Ⅱ	①ＡＤＬ・ＩＡＤＬ評価の意義と代表的ＡＤＬ検査のバーセルインデックス、ＦＩＭの基本的検査方法を理解する ②事例を通して基本動作、セルフケア、ＩＡＤＬの結びつきについて理解を深め、それぞれ援助の重要性について学ぶ	２年前期	30	1	△	○		○	1	望月　真樹 奥川　達也
○			義肢学	①切断のリハビリテーションの実践を理解する ②義手の構造を理解し、義手訓練及び適合判定を実践できる	１年後期	30	1	○			○	1	音琴　慎一
○			装具学	①装具療法の概要を学び、疾患別の装具の適応について理解する ②装具の採型から作成、適合判定の過程を理解する	２年前期	30	1	○			○	1	音琴　慎一
○			高齢期の作業療法	①高齢期における発達過程について理解できる ②高齢期障害を引き起こす主な疾患の原因・病態生理・症候・診断と治療を学ぶ	２年後期	30	1	○			○	1	新垣　孝幸
○			中枢神経疾患の作業療法学Ⅰ	①身体障害分野において対象となる疾患の病態・特徴・関連して現れる症状を理解する ②病態から必要となる評価とその意味を知り、治療・訓練へのアプローチなど作業療法実施における過程を知る	２年前期	60	2	○		△	○	2	富本　哲平
○			中枢神経疾患の作業療法学Ⅱ	頸髄損傷の頸髄４・５の各髄節レベル損傷における状態の違いと到達目標のADLの違いを理解する。治療目標設定、必要な自助具や装具、環境設定を含めたアプローチ方法について説明できる。	２年後期	30	1	○		△	○	1	望月　真樹
○			運動器疾患の作業療法学	整形疾患（骨折、関節疾患、末梢神経損傷、腱損傷など）の原因、病理、症状を理解し、作業療法評価および治療の選択ができる	２年後期	60	2	○		△	○	2	音琴　慎一
○			小児疾患の作業療法学	運動発達の障害について原因疾患、障害像および作業療法支援の方法を理解する	２年前期	30	1	○		△	○	1	中田　孝
○			内部障害系疾患の作業療法学Ⅰ	①循環器系の代表的な疾患について理解し作業療法介入方法を理解する ②代謝系疾患に対する作業療法の基本的介入方法を理解する	２年前期	30	1	○		△	○	1	中田　孝

○			内部障害系疾患の作業療法学Ⅱ	①呼吸器系の代表的な疾患について理解し作業療法介入方法を理解する ②悪性腫瘍に対する作業療法の基本的介入方法を理解する	2年後期	30	1	○		△	○	1	平間　岳
○			精神障害の作業療法学Ⅰ	認知症高齢者を含む精神医療における現状、利用できる制度及び社会資源を理解する。また、精神疾患の対象理解とリハビリテーションの概念を踏まえ、作業療法理論と構造、技術及び作業療法評価の基礎を理解する。	2年前期	60	2	○		△	○	2	新垣　孝幸
○			精神障害の作業療法学Ⅱ	精神障害領域の作業療法の対象となる疾患の臨床像と精神特性、疾患別作業療法の治療的方法について　理解する。認知症及び児童期精神障害を含む。	2年後期	60	2	○		△	○	2	新垣　孝幸
○			高次脳機能障害の作業療法学	①注意とは何か、その諸側面を説明できる ②注意障害の評価方法を説明できる ③注意のネットワーク及びワーキングメモリーの機能を述べることができる	2年後期	30	1	○		△	○	1	新垣　孝幸
○			作業療法学技術演習Ⅰ	生活行為向上マネジメントの概念をもとに、提示された症例の全体像を把握し、現状能力や生活行為を妨げている要因の分析、目標設定、治療プログラム立案という一連の作業療法思考過程を経験する	2年前期	60	2		○		○	2	金平智恵美 平間　岳
○			作業療法学技術演習Ⅱ	生活行為向上マネジメントの概念をもとに、提示された症例の全体像を把握し、現状能力や生活行為を妨げている要因の分析、目標設定、治療プログラム立案という一連の作業療法思考過程を経験する	2年後期	60	2		○		○	2	富本　哲平 音琴　慎一
○			作業療法学総合学習Ⅰ	①臨床実習の経験を元に、評価学分野、中枢系分野、運動器系分野における専門基礎科目・専門科目の知識と思考過程の統合を図り、国家試験合格に必要な総合的学力をつけることを目標とする。	3年後期	60	2	○			○	2	金平智恵美
○			作業療法学総合学習Ⅱ	①臨床実習の経験を元に、内部系分野、小児・発達系分野、心理・精神系分野における専門基礎科目・専門科目の知識と思考過程の統合を図り、国家試験合格に必要な総合的学力をつけることを目標とする。	3年後期	60	2	○			○	2	金平智恵美
○			作業療法学総合学習Ⅲ	①臨床実習の経験を元に、国家試験出題範囲全ての専門基礎科目・専門科目の知識の統合と思考過程の整理を図り、国家試験合格に必要な総合的学力をつけることを目標とする。	3年後期	60	2	○			○	2	金平智恵美
○			生活環境学	障害者、高齢者の地域生活支援方法として、社会制度の活用、福祉用具の適応、住環境の改造等整備が行える知識を身につける	2年後期	30	2	○			○	2	金平智恵美
○			地域作業療法学演習	地域作業療法の理念、目的、概要について学び、在宅作業療法、就学支援、就労支援等の地域で暮らすための作業療法支援の在り方を理解する	2年後期	30	2	△	○	△	○	2	金平智恵美
○			臨床実習Ⅰ	①チーム医療における理学療法士・作業療法士の役割を理解する。 ②代表的な疾患の症状や現象を観察する。 ③代表的な疾患に対する評価や治療を観察する。	1年後期	45	1			○	○	1	富本　哲平 平間　岳
○			臨床実習Ⅱ－１	①　地域包括ケアシステムにおける実習施設の役割を理解し説明できる。 ②　実習施設における理学療法士・作業療法士および他専門職の役割を理解する。 ③　学校および実習施設の規則に従って自覚を持った行動がとれる。 ④　実習施設における理学療法・作業療法業務の一部経験する。	2年後期	45	1			○	○	1	平間　岳
○			臨床実習Ⅱ－２	精神科医療機関、認知症関連施設において、臨床教育者の指導の下、精神障害者の障害特性や生活のしづらさ、精神科作業療法の実際など、精神科領域における作業療法士の役割を理解する。	2年後期	90	2			○	○	2	平間　岳
○			臨床実習Ⅲ	①対象者を尊重し、共感的、傾聴的態度をもって接することができる ②職場における理学療法士・作業療法士の役割と責任について理解する ③理学療法・作業療法における臨床評価の流れを経験し、理解する ④指導者の監視下において、学生により実施されるべき項目の検査・測定およびリスク管理や観察を実践することができる	3年前期	360	8			○	○	8	富本　哲平 新垣　孝幸

○			臨床実習Ⅳ	臨床実習指導・監督の下で、典型的な障害特性を呈する対象者に対して、 ①臨床教育者の理学療法・作業療法の臨床思考過程を説明し、理学療法・作業療法の計画立案ができる ②臨床教育者に許可された臨床技能を実施できる	３年前期	450	10			○	○	10	富本　哲平 新垣　孝幸
合計				全51科目										
				総授業時間および単位数	3150時間		126単位	実務教員担当科目			100 単位			
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
卒業要件：すべての授業科目の単位修得を認定された者履修方法：講義・演習・実習により履修する								１学年の学期区分			2期			
								１学期の授業期間			17週			